

厚狭地区の句碑をめぐって

本市は平成十七年の合併以前は、小野田市と山陽町に分れており、俳句活動も別々の流れの中で、互いに積極的な交流は乏しかったようだ。両地区にはいくつかの句碑が建立されており、句碑の一覧は山陽小野田市立図書館のホームページに掲載させていただいた。ここでは、厚狭地区に残る句碑を列記してみたい。

【厚狭地区】

場所	俳句	作者	建立年月
松獄山・正法寺	護摩焚きの鼓のやみしときほととぎす	松岡伊佐緒	昭和五十四年
物見山総合公園菖蒲園	花菖蒲鬱気に触れて開きゐし	〃	昭和六十一年
物見山	ふる里の山河親しも初景色	重村蒼生	昭和六十一年
寝太郎権現	田の神は寝太郎権現農始	〃	平成八年
鴨神社	氏神へ奉納角力子供の日	〃	平成十一年
厚狭天神	根を張りて宮を護れり松の花	〃	平成十二年
厚狭天神	川上とこの川しもや月の友	松尾芭蕉	明治二十六年

厚狭地区に二つの碑の残る松岡伊佐緒氏は、戦時中に高浜虚子の直接の指導を受け、「ホトトギス」同人となり、後に県ホトトギス会長となった俳句界の重鎮であった。氏は下関在住であったが、後進の育成に力を注ぎ、山陽町では山陽俳句会を、亡くなる昭和六十年まで長く指導した。

また、町内の随所に句碑の残る重村蒼生氏は地元企業内での文化活動の高まりの中から句会を立ち上げ、広く郷土の文化振興のために力を尽くした。昭和十六年には自宅を開放して「厚狭土筆句会」を創設し、昭和四十九年には町立厚狭図書館に「ときわ句会」を開設して、平成十三年九十一歳で亡くなるまで、地元への句指導に献身した。

明治年間には、主として神社を中心に芭蕉の句碑がいくつか建立されている。当時は俳句と言えば俳聖芭蕉に対する畏敬の念が強かったのだろう。特に厚狭天神の碑の裏面には、芭蕉没後二百年を記念する意の一行が辛うじて読み取れる。

このように碑めぐりをしてみると、すでに時の経過とともに碑面が磨耗して読み取りが難しいもの、草木が茂ってその中に隠れているものなどがあるが、それらを探せば巡らす思いも深くなり、散歩としても自然の楽しみ方が違ってくるように思われる。

(文／写真：山本桂子)



▲重村蒼生の句碑